

# 幼稚園の懷舊を辿りて (三)

望月くに子

## 三 神戸の保育

關西に於ける幼兒保育第一の功勞者として頌榮幼稚園長アンニー・ライオン・ハウ氏を擧げ得られることを私は名譽として嬉しく思ひます。先づ同氏を知らんとする方々に其概念を得て戴きたいと存じまして略歴を掲げます。

ハウ氏履歷書

原籍 北米合衆國マサチューセツト州ボストン

府フワルクライン

現住所 神戸市中山手通六丁目二二

アンニー・ライオン・ハウ

一八五二年一月十二日生

## 學業

一八六〇年より一八六七年迄米國イリノイス州小學校にて修業

一八六七 ロックフォードセミナリーに入學

一八六九 同校音楽部卒業（現在ロックフォード大

學）

一八七一 ボストンにて音楽修業

一八七二 同上歴史修業

一八七三 同上家庭に於ける社會學研究

一八七六 米國バトナム保姆學校に入學

一八七八 同校卒業

業務

一八七八 シカゴにて私立幼稚園を開く

一八八七 夏迄同上園長勤務

一八八八 米國中央婦人傳道會社の宣教師として日本に来る

附記

明治三十二年十二月廿日附頌榮保姆傳習所長の認可下附

一八八九 神戸組合教會婦人會經營頌榮幼稚園及同保姆傳習所勤務

認可下附

明治三十二年十二月廿八日附文部大臣より頌榮保姆傳習所教育、心理、倫理、理科、音樂、保育料の教員認可を受く

一八九五 休養の爲米國に歸る

明治四十年前同様の認可を受く

一八九七 再日本に來り頌榮幼稚園長及保姆傳習所長として勤務

出版目錄(ハウ氏著)

一九〇三 米國シカゴに於ける母校の所長となる爲辭職米國に歸り六ヶ月間同大學に於て歴史を學ぶ

明治二十五年 幼稚園唱歌第一編

同 二十九年 同續編

一九〇六 シカゴを辭し再日本に來り前年通り就職

同 三十年 母の遊戯

同 四十二年 開發的生活

一九一三 休養の爲米國に歸る

大正 六年 幼稚園原理と實習

一九一四 再日本に來り前通り就職

同 七年 フレーベル傳

一九一七 米國に歸る

同 十四年 人の教育

一九一八 再日本に來り同上職務繼續以て現今に至る

褒賞 明治四十二年三月神戸市教育會より二十年功績

の賞として褒状と銀メダルを送らる

大正三年神戸小學校開校三十年紀念祝賀會より  
褒状と硯箱を送らる

大正十年神戸市開港五十年祝賀會より褒状並に  
銀の箱を受く

以上

始めハウ氏が我國へ渡來せられた動機は明治二十年京都同志社の先生デビス氏が米國へ歸られてシカゴで演説をなさいました其中に次の様な其時のお話に「今日日本では何にても一藝を有する専門の先生を要求して居る」とのことでありました、ハウ氏は其時まで日本について少しも何も御存じはありませんでしたが天よりの御聲でありましたのでせう何とも知れず内心からつき動かすものがあつて直ちに決心をして自分の事業（米國の團長）を擲ち日本へ渡航することを同國婦人傳道會社へ申込まれました。幸に其採用する處となつて

日本に向はれました、其時ハウ氏は日本には未だ幼稚園はあるまいと思ふてフレーベルの恩物などを澤山にもつて明治二十年十二月日本に來られました（此年此月神戸兵庫兩幼稚園は神戸に開かれました）然るに日本には已に東京大阪に宗教以外の幼稚園がありキリスト教では金澤に北陸女學校附屬幼稚園がありました。折角ハウ氏は熱心な希望に充ちて渡來なされたのに當時の日本組合教會のミッシヨンは幼稚園の爲には一錢も出しませんでした。しかしハウ氏は少しも失望なさいません。神様の御命令に依つて來られたハウ氏にはチャント同時に其仕事事が備へられてありました。折柄神戸教會の婦人會は切に幼稚園を要求してゐました。神戸教會の横田勝治氏は萬事幹旋の勞を取られました。先づ、

明治二十二年十月保姆傳習所を建てられました其十一月現今の頌榮幼稚園（神戸市中山手通五丁

目)は我國基督教の第二番目の幼稚園として設立されました。神戸教會婦人會は先づ家屋を建てることにした。米國よりの寄附は遊戯室と保育室、寄宿室とでありました而して園長のハウ氏は始めのミツシヨンの年會に此幼稚園の爲三百弗を要求なさいました。以來年々經費は増しましたが現今では日本人の支出は一年の經費の半分以上になつたといふこととあります(勿論傳習所の月謝と幼稚園幼兒の保育料を含む)其經營の苦心に至つては御氣の毒に思ふことがあります米國から來たハウ氏の友人は同幼稚園の外觀の甚だ振はざるを見て驚かれるそうですがハウ氏の尊さは決して其外觀ではありませぬ其内容であります。私は四十年一日の如くキチンと毎朝毎日時計の様に其事業に熱心して居られるのを目撃し感心して居ります十五六年前にある朝私が縣廳へ用事があつた行く道でハウさんにあひましたハウさんは朝の撻挨の終

るや終らざるにあなたは今どこへ行きますか幼稚園の子供はどうしましたかと言はれました私はハウさんが子供を思ふ熱情に敬服しました。其頃日本の幼稚園では保姆の希望者が甚少くて小學校卒業位の婦人を保姆として採用してゐましたのでハウさんは多分憤慨してゐてになつたものでありませう。同じ頃私が友人安井哲子氏を伴ふて來觀に頤榮幼稚園に行きました時安井氏に向つてあなたはどこで幼稚園の勉強をしましたかなど、随分手ひどくいはれたことがありますましたが安井氏も私も夫はハウさんの熱心のほどばしりだと思ふて忍耐もし又敬服したのであります。

此稿を草するに當り誤りを傳へてはならぬと思ひまして私はハウさんを訪問いたしましたハウさんは觀迎して下さいました、御自分で「ハウサン八釜シイ何時でモ八釜シイ」音樂について、理想の教育について、空氣、美術、文學、純潔、法律

に服従すること、亂暴はいけない、神様の教へに従ふこと、萬國的事であること、學校に行く前に實物と遊戯で理科の土臺を築くこと、などでありますとの事でした實際ハウ氏は一々其實行してゐてになりました。四十年に近き其努力は唯々感嘆の外ありません終始一貫其意志の堅きこと磐石の如して中々八釜しい位のことではありませぬ。

私がハウ氏を始めて知つたのは明治二十三年頃だと思ひます、私は前々號に記載いたしました通り保育について學校で學びましたことは甚淺薄でありました。殊に有力な唯一の保育材料だと思つた遊戯唱歌でさへ至てむつかしい子供と離れたものでありましたので自分ながら常に苦心して居りました。ハウ氏の著幼稚園唱歌二冊によつて始めてかくあるべきものと悟りました(勿論直譯でありましたので歌詞に無理な處もありましたが)其頃フレール恩物の説明に至つては殆ど他に類は

無かつたと思ひますハウサンは實に恩物殊に第一第二恩物に深きお考へをおもちになつて夫を遊びに應用することに苦心しておいでになつたと記憶いたします横木の寸法に合せて机に線を引き其野によりて正確に積ませたり敷を覚えさせたりなさいました粘土一つでも決しておろそかにはなさいませんでした其節ハウ先生のお教へになつた粘土細工に二分の一四分の一八分の一等の定義や積木や板排べの長方形板等の如き幾何學的の定義を用ふはよいか否やの問題が日本の保育者の中に起つたこともありました。

兎に角明治二十二年から三十四五年に至る間ハウ氏が我國の保育上に貢獻せられ改良せられたことは實に多大なもので其影響を受けた方は澤山あつたと思ひます。

明治三十年には京阪神三市聯合會を主唱されそして年二回三市で交互開會されて居ります其頃の

同雜誌を見るに實に内容的に立派なもので今以て

參考になることが澤山にあります此三市聯合會は惜しいことには宗教上の儀式と我國の開會の方法

との上に意見の相異がありましたしか明治三十

三年頃遂にキリスト教側と日本側とは分離して仕

舞ましたが現今では双方とも相對立して大に發展

いたしました非宗教側は京阪神岡山名古屋の五市

の聯合に依つて毎會六七百人の會合となり基督教

側は各宗派聯合で年々輕井澤に大會を開き已に二

十回に及び全國各方面に支部が出來幼稚園數も三

百に達して居るとの事であります。勿論廣島より

大阪へ移られたミス・クック氏など外國人て大に

我國の幼兒教育にお盡くしになつて居る方があります

ますが最初より終始一貫、おしよせて來る教育の

思潮にも動かされず、獨立獨歩其信ずる處に従つ

て行動されて居るのは實にハツ氏であると思ひま

す其著書に依つても同氏の熱心な主張は表はれて

居ますから皆様よく御存のことと存ます。

ハツ氏はいはれます。日本の凡ては非常な進歩であるけれども、音樂だけはまだ充分でない

とこれは私もそうだと思ひます。

ハツ氏又曰く、私の國に運動用具は置かない。

子供は運動用具はなくとも自由によく遊びますよ

と（私はあつても別にわるくはないと思ひます。

しかし廣い自然の中に少い子供のある場合はハツ

サンのお話は本當です人の造つたものよりも神様

のおつくりになつたものゝ方が遙かにくよろし

いてすもの）

ハツ氏は昔しより觀察については準備に非常に

苦心してゐてになつたことを知つて居ます十數

年前の或日私は諏訪山へ乗りました頌榮幼稚園の

保姆の方にあひました。夫はかたくり（澱粉）を子

供に知らず爲てせう山にある葛の葉を見付つけて

其根を掘つてゐてになりました山が淺い故中々

の苦心で少しばかりお取りになつてゐました。最近では一月から四ヶ月に亘り「世界の發明について」といふ題目の下に毎朝會集の時瓦斯、電氣、汽車、ラヂヲ等凡ての發明品についておもしろく子供にわかる様に種々苦心して話したり畫いたり手技にしたりしてゐてになります其準備其努力眞に感心の外ありません。

猶ハウ氏の整理のお上手なことに感心いたします餘りお金をかけないで凡てを秩序整然と一枚の圖畫までよく整理されて居ります亦以て範とするに足ります。

ハウ氏の實際上の方法については多少批評を下す人もありますが夫は意見の相違でありまして兎にも角にも我國に於ける保育の功勞者としては同氏は實に拔群であると思ひます。

私共日本人殊に幼児教育者は此偉大なる人ハウ氏に對して充分なる感謝を捧げるのが當然である

と信じます。同氏も近きうちに米國へお歸りになることゝ存ます其前に於て是非とも何等かの機會に於て大に推賞して日本人の誠意を示したいと存ます。幸ひ小さいことですが神戸市保育會では何とかして同氏に謝意を表したいとの議が起つて居りますが私は全國的になされねばならぬことだと信じて疑ひません。皆様如何思召ますか。

(神戸の保育未完)

——六、一五、——

あらたふと青葉若葉の日の光

朝露によごれて涼し瓜の泥

芭蕉